

令和6年度 文京区立昭和小学校 授業改善推進プラン

第3学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の定着が低い。習得した漢字を正確に書いたり、文章の中で使ったりする力が弱い。 ○自分の考えを書いたり、順序立てて伝えたりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字を学習する際に、その漢字の意味や成り立ちを確認する。日常的に漢字を使わせる。 ○自分の考えを言語化する場면을工夫する。主語や述語を意識して文章を書くように継続的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章を書く活動の際には、既習の漢字を使うように声をかけ、定着を図ることができるようにする。 ○ペア学習やグループ学習などの話し合いの場を多く設定する。自分の考えを表現する際に話型や文型を示すことで、主語や述語を意識して話したり、順序立てて文章を書いたりすることができるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題に沿って資料を読み取る力が十分ではない。 ○資料の読み取りをもとに、情報を関連付けて考察したり、まとめたりする力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題を明確にし、目的意識をもって資料を読み取れるようにする。問題を意識してまとめさせる。 ○学習問題を解決するために、どのようなことを考察したり、まとめたりすればよいのか、視点を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や既習事項と結び付けながら、自分たちの疑問から学習問題を作る。問題についての予想をし、常に学習問題を示して、各自が意識できるようにする。 ○図やイラスト、表やグラフ、地図などを用いて視覚的にまとめる方法を示す。学習したことを比較したり関連付けたりして考えることを指導する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能を生かしてノートに書き表す力が弱い。 ○グラフや表の数の大きさは理解できるが、何を意味しているかを読み取ることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを表現するためには、図・式・言葉などの様々な方法があることを知り、表すことができるようにする。 ○繰り返し様々な表やグラフを読み取る。 ○他教科や総合的な学習の時間でも表やグラフを使用する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の表現方法を振り返って活用したり、様々な表現方法を自分の考えに生かしたりする児童を取り上げて紹介する。友達のを説明する経験を積みさせる。 ○日常生活で表やグラフを目にする機会が少ないので、分かりやすくまとめる手段として、他教科や総合的な学習の時間でも積極的に活用するように促す。 ○データを比較したり、読み取ったことを活用したりすることで、何のために書かれたグラフなのかを考えられるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○見通しをもって観察や実験ができない児童が多い。 ○根拠に基づいた考察ができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの予想や仮説に基づいて、観察や実験の計画や方法を工夫して考えられるようにする。 ○検証したことを基に、問題について論理的に考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習との差異点や共通点を比べ、問題点を見つけさせる。問題点について、経験や活動を振り返らせ、自分なりの予想をたてさせる。 ○観察や実験の結果を比較して明らかになることを順序だてて説明させる。問題を意識し、その答えになるように考えるよう助言する。

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
体育	<p>○運動に対する意欲はあるものの、自身の動きの感覚への意識が乏しい。</p> <p>○様々な運動の中で、友達にアドバイスをしたり、もらったりなど交流を通して自身の運動に生かすことのできる児童が少ない。</p>	<p>○児童の持つ運動経験を基にした学習ステップの考案や、児童自身にコツを考えさせることで、自身の動きの感覚への意識を高める。</p> <p>○手本や友達の運動を見る視点を明確にする。</p> <p>○振り返りや伝え合う時間を十分に確保する。</p>	<p>○準備運動の際に、感覚づくりのための補助運動を取り入れ、できる運動から本時の主運動へと徐々に近づける。</p> <p>○ICTを活用し、運動のポイントをイメージしやすくするとともに、学び合いのツールとして用いる。</p> <p>○関わり合いを充実させるために、ICTの活用やワークシートを工夫する。それぞれが役割をもち、活躍できる場を設定する。</p>
音楽	<p>○楽しみながら意欲的に音楽活動に取り組む児童が多い。しかし、リコーダーなどの器楽の技能において個人差がある。</p> <p>○音楽の曲想を感じ取り、特徴を理解することはできるものの、その特徴を捉えた表現を工夫することが難しい。</p>	<p>○個々の習熟状況を把握し、習熟度に合った声掛けや、ねらいを明確にした練習を行う。</p> <p>○様々な表現方法を試したり、自分の演奏を振り返ったりする活動を重ねて、音楽の特徴にあった創意工夫を目指す。</p>	<p>○常時活動としてリコーダーの練習に取り組んだり、児童同士で学び合う機会を設けたりすることで、継続して技能の定着を目指す。</p> <p>○グループで演奏の工夫をしたり、自分たちの演奏を聴きあったりすることで、表現する力を身に付けて思いや意図をもった演奏ができるようにする。</p>
図工	<p>○自由な発想をもつてのびのびと表現を楽しんでいる児童が多いが、表したいことを見付ける力が十分でない児童がいる。</p> <p>○きまりを守って学習に取り組むことができる児童が多いが、時間通りに片付けることが苦手な児童がいる。</p>	<p>○課題説明の後に、お互いの発想を共有し合う場を設定し、イメージを広げやすくする。</p> <p>○片付けの時間を十分に確保しつつ、時間内に片付けが終わるよう、児童に合わせて具体的な助言を行う。</p>	<p>○発想を引き出すための声かけを行うだけでなく、制作の途中や作品の完成後に鑑賞の時間を取り入れ、児童同士で学び合えるようにする。</p> <p>○一人で作品作りをしているわけではないという点や、次に使う人に対する思いやりについて指導し、意識をもたせる。片付け方が分かるよう、説明や板書を明確にする。</p>